

灯油高 困窮者重く

一日中暖房が必要な寒い地方で暮らす人々の命綱、灯油。いま、高騰しています。「食べ物がないことよりも、灯油がねえことの方が、ひもじい。寒さは我慢できねえから」。雪国、青森県で生活保護を利用しながら母子と寄り添い暮らす男性は、実感を込めて話します。灯油の高騰が社会的に弱い立場の人の生活を押しつぶそうとしています。(遠藤寿人)

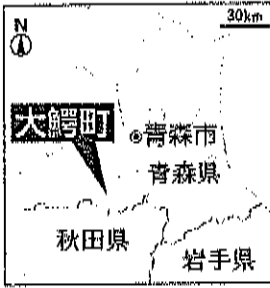
青森・大鰐町

秋田県との県境、青森県南津軽郡大鰐町。競技スキーが盛んです。国道をそれ、急勾配の坂道を右に左に上ると、原子鐵則さん(67)のトタン張りの家に着きました。築55年超、敷地約95坪の持ち家です。一人息子の則世さん(40)と住んでいます。

生活費工面大変

塗替えでしたが、屋根から落ちた足指4本を骨折。うまく完治せず、現在も痛

"食べ物ねえより、ひもじい"



みと旅行困難があります。そのうえ持病の糖尿病で視覚障害も。

則世さんは脳性まひで半身が不自由。左目が見えず、右目も緑内障で視野障害があります。てんかんもあります。

2人は、則世さんの障害年金と作業所で働いた工賃、鐵則さんの年金と生活保護で暮らしています。靴や肌着を買う余裕はありません。

石油ストーブじゃないと冬は越せないと話す原子鐵則さん(右)、則世さん親子

せん。鐵則さんは「毎月、生活費の工面が大変だ。例年、灯油代が月3万円かかる。今年は灯油代が高くてこたえるよ」といいます。

10月〜4月まで、防寒着や灯油代などに充てる生活保護の「冬季加算」が月約1万8000円支給されます。それでも十分とはいえません。

夜通し暖房必要

青森県内の灯油価格をみると、2016年1月は1リットル52円。今年は11月16日現在で102円と2倍に跳ね上がっています。鐵則さんは「値上がり前は18リットルのポリタンク5個買った額で、今は3個しか買えねえ」といいます。近所に店はなく、買い物に行くにも介護タクシーが必要です。

家ではストーブ3台を使用。則世さんのでんかん発作もあるので、冬場は夜通し暖房が欠かせません。日中は火をつけませんが、取材の日は細い火で部屋を暖めてくれました。

(13面つづく)